

PMR 資格試験への挑戦 4

34 歳で PMR に挑戦した記

深尾 祐樹

■ 受験動機

P2M の実践力を測る試験・資格に興味を持ち PMR 資格試験に挑戦しました。

普段の業務でも P2M の有効性を実感しており、自分自身その実践力を有しているかどうか確認したかったからです。また、若手・中堅の社員こそが P2M の知識を習得し、実践することで“現在の不満、未来への不安”を“改革・成長に向けたチャンス”に変えられると考えていたので、自らが PMR 資格を有することで、その気運を高められないかと考えました。

■ 受験の感想

『楽しかった。学びが多かった。』というのが一番に上がる感想です。

一次試験は事例問題、二次試験は事例を踏まえたグループ討議でしたが、いずれも与えられた事例に対して当事者意識を持ち、自分だったらどうするか、P2M に当てはめると〇〇だが、本当にその方法で人が動くのか、解決に繋がるのか、こういったことを考えながら回答し、他の受験者とディスカッションする時間は普段の業務では得られない良い刺激・学びが得られました。試験中は業務経験の浅さから上手く答えられないことも有りましたが、そのことで自身の弱点に改めて気づくことができました。すこしでも興味が湧いた方は PMR 養成研修を受けられることを強くお勧めします。研修では実際の試験に近い形式で例題を解くので、私が申し上げた楽しさや学びの多さを体感でき、試験のイメージもつくと思います。また私は研修を通じて、普段の業務で P2M を意識できているか振り返ることができました。

■ PMR としての展望

事業戦略や組織ミッションを考える企画の部署や組織長だけでなく、社員一人ひとりが P2M の知識を習得していることが望ましいと思います。これからの時代は、与えられた業務の効率・精度を追求するだけでなく、戦略を描き、実践する力が今以上に必要になると考えるからです。PMR として、まずは社内の若手・中堅社員を中心に P2M の普及を目指そうと思います。



【プロフィール】 深尾 祐樹 (ふかお ゆうき)

日鉄エンジニアリング株式会社 PMIS 推進部 マネジャー

日鉄エンジニアリング入社、研究開発、製造管理を経て、2019 年より現職。社内のプロジェクトマネジメント情報システムの企画・開発を行っている。